

# 平成29年5月 経営協議会議事録

- I. 日 時 平成29年5月18日（木） 14時00分～16時07分
- II. 場 所 千葉大学けやき会館 レセプションホール（3階）
- III. 出席者 徳久学長、有馬、犬養、香藤、河田、黒木、島田、西堀、萩原、船橋  
正宗、宮坂  
中谷、渡邊、関、山田、猿渡、小澤、中山、山本、齊藤各委員
- がざー 桑古監事  
(欠席者：加賀見、銭谷、武藤、堀、金原、佐藤各委員)

議事に先立ち、徳久学長から、4月から4年間の任期で学長を務めることとなった旨挨拶があり、引き続き4月から委員となった7名の紹介があった。

- IV. 前回審議議事録について  
原案のとおり承認された。

## V. 審議事項（◎学外委員、○学内委員）

### 1. 平成30年度概算要求の状況について

中谷理事から、平成30年度の概算要求の概要について、資料に基づき説明があった後、関理事から、「戦略①グローバルプロミネント研究基幹による独創的な次世代研究の創出と戦略的推進」について、渡邊理事から、「戦略②国際未来教育基幹による世界水準の教育実践と次世代型人材育成」及び「戦略③世界最高水準の海外教育研究拠点形成による新学術領域の創生とグローバルリーダーの育成」について、中山副学長から、「戦略④亥鼻キャンパス高機能化構想による治療学創成に向けた未来医療研究拠点形成」について、猿渡理事から、「平成30年度施設整備費要求の主な事項」について、資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。  
主な意見は以下のとおり。

- ◎ 高大接続について、昨今偏差値が高いから医学部を志望するなどの傾向が見受けられるが、自分が大学に行って何をするのかをもっと考えて入学してもらえるよう、高校生に向け、キャリア設計等の問題意識を持って学部を選択するような仕組みを大学自ら高校に働きかけるなどの取り組みを実施していただきたい。
- ◎ 地方創生学については、世界各国においても地方創生問題があり、日本の問題を解決するうえで、各国の事例を取り入れることも有意義である。
- 地方創生学は、COC+事業が平成31年度に終了するが、今後も継続して進めていきたい。昨今の国立大学の厳しい状況を叫んでも国民の理解を得られていないが、COC、COC+事業が現状を打破する格好のチャンスであると考えている。大学が地域に出て、様々な「知」を利用していただけると、大学の真の姿が分かっただけ、サポートしていただけるとはならないか。

- ◎ 地方創生の際に、地方自治体がどのくらい千葉大学に関心を持っているのかが一番大きな基礎となる。本経営協議会の中に県や市の関係者が誰もいないが、委員として入っていただくことで大学のことを理解していただける。次の経営協議会メンバーを選出する際はその点も検討していただきたい。
- ◎ 医療系にAIを活用する本取組については、ゲノム解析が基本となるが、どのようにサポートするのか。
- ビックデータの解析は、附属病院のビックデータとカルテ情報をリンクさせながら、サンプル解析を、かずさDNA研究所とタイアップし依頼することとしているが、細部は検討中であるため、ご意見があればいただきたい。
- ◎ ビックデータで画像診断等をAIで行おうとすると、サンプルが多ければ多いほど答えが出しやすい。他の大学病院等と連携しながら、ビックデータを処理することが必要ではないか。
- ◎ プロジェクトをうまく進めるためには、よきパートナーが選定できるかが重要であり、パートナーシップの選び方は将来の成果を大きく左右するのではないかと考えるが、どのようなプロセスで選定していくのか。
- すでに数社との間で行っており、プロジェクトとして走らせながら、人材育成に係る講座を作り、クロスアポイントメントを結びながら進めているところである。本学のユニークな試みを出しながら、いい相手を選びたいので是非ご教示いただきたい。
- ◎ AIについては、是非力を入れていただきたい。これからの研究課題の中で積極的に取り入れていくことが大事である。
- ◎ AIを概算要求として提出する際には千葉大としての特徴をはっきり出さないとまず取れないのではないかと。また、スライドを分かりやすくした方がよい。
- ◎ 各戦略において、いろいろなセンターがあるが、アライアンス（自分の不足するところを補って、長所を評価していただく）を全体で見て、限られた資源の中で提案できるアライアンス創造センターのような役割を作ってはどうか。
- AIは避けて通れない基盤技術だと考えている。なんらかの形で研究者が触れていないと、どんどん遅れていく。たとえ概算要求として通らなくても組織は作っていかないと、遅れてしまうと考えている。

## 2. 平成29年度資金運用計画（案）について

猿渡理事から、平成28年度の資金運用実績について報告があった後、平成29年度の資金運用方針（案）、資金運用計画（案）について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ 千葉大学の場合は運用額が少なく、職員を育てるといのはどうかと思うが、職員の中からある程度この分野の職員を育てる必要もあるのではないかと。

- ◎ 今は資金運用に熟知した職員がいないということだが、卒業生の中には専門家がいますと思うので、運用管理委員会のような機能を卒業生の専門家を加えて設置したほうがよいのではないかと。  
いつまでも利率が低いとか危険性があるという理由で避けるわけにはいかないのではないかと。
- ◎ 私は、大学の本分と資金運用は別だと考える。そのようなことに体力を注ぐよりは、すばらしい研究をしてお金を集める、そのような大学だからこそ卒業生もお金を出すという正攻法の方がよい。大学の持っているプロフェッショナルを追求することで社会の潮流に流されることなく、資金運用はしないがお金を潤沢に稼いでいるよと、研究費も十分にあるよと、そういう大学になってほしい。
- ◎ 今回の件はこれでよいのではないかと。期日まで持っているという運用なので、期中での売買を考えないでほしい。いずれにしても、もっと寄付金を集められるようにしていただきたい。
- ◎ 国立大学の保有地を有効に活用する方針は議論されているのか。
- 資産運用と併せて法律改正されており、文部科学省としてはそれを受けて各大学で検討を始めており、千葉大学での可能性については考えている。

## VI. 報告事項

1. 第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について  
中谷理事から、第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果（原案）、学部・研究科等の教育に関する現状分析結果及び中期目標の達成状況に関する評価結果に対する申立て状況について、資料に基づき報告があった。
2. 平成28事業年度財務諸表（素案）等について  
猿渡理事から、平成28事業年度財務諸表（素案）及び決算報告書（素案）について、資料に基づき報告があった。
3. 平成29年度科学研究費助成事業の応募・採択状況等について  
関理事から、平成29年度科学研究費助成事業の応募・採択状況及び交付内定状況の速報、並びに共同研究、受託研究及び奨学寄附金の受入実績について、資料に基づき報告があった。
4. 平成29年度千葉大学入学状況等について  
渡邊理事から、平成29年度学部・大学院の入学状況及び平成30年度千葉大学個別学力検査等の日程について、資料に基づき報告があった。
5. その他
  - ①大学間格差はべき乗則にしたがうについて  
黒木委員から、大学間格差はべき乗則にしたがうについて、資料に基づき報告があった。

②臨床研究中核病院の承認等について

山本附属病院長から、臨床研究中核病院の承認及び国立大学附属病院による共同調達について、資料に基づき報告があった。

③大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）の事後評価結果について

渡邊理事から、大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）の事後評価結果について、資料に基づき報告があった。

④猿橋賞の受賞について

関理事から、第37回猿橋賞の受賞について、資料に基づき報告があった。

⑤本学学生・職員による不祥事への対応について

渡邊理事から、本学学生・職員による不祥事の経過並びに平成28年度における学生の事件・事故等及び人命救助について、報告があった。

⑥今年度の開催予定について

田中総務課長から、今年度の開催予定について、資料に基づき報告があり、併せて、書面審議の予定について説明があった。

以上